

Veritas In Silico

130A・100株

2月8日

東証グロース上場

mRNA標的的低分子創薬を主たる事業とする

mRNAを標的とする低分子創薬および核酸創薬のプラットフォーム事業を展開する。mRNA標的的低分子創薬のプロジェクトについては、現在、共同創薬研究のパートナー4社（東レ<3402>、塩野義製薬<4507>、ラクオリア創薬<4579>、武田薬品工業<4502>）とのプロジェクトが進捗。4社とのプロジェクト中で最も進んでいるプロジェクトは、現在「ヒット化合物検証」を実施中の段階。

mRNA医薬は新型コロナウイルス感染症のワクチンで世界で初めて実用化され、注目されている創薬モダリティのひとつ。黒字転換見込みのバイオベンチャーであり、軽量感のある公開規模はポジティブ材料。

公開規模は10億円前後となる見込み。公開株の一部は海外販売される予定。

■IPOスケジュールと類似企業バリュエーション

日程	
仮条件提示	1月23日
ブックビルディング期間	1月24日～1月30日
公開価格決定	1月31日
申込期間	2月1日～2月6日
払込日	2月7日
上場日	2月8日

類似会社3社PBR（1/19終値基準）

ナノMRNA<4571>	3.4倍(連)
カイオム<4583>	5.9倍
リボミック<4591>	1.0倍(連)

（類似会社はいずれも赤字でPERは算出不可能のためPBRを記載）

Veritas In Silico

130A・100株

2月8日

東証グロース上場

決算期	事業収益	業績推移 (百万円・%)				
		伸び率	経常損益	伸び率	純損益	伸び率
2019/12	18	8.9%	▲ 275	—	▲ 278	—
2020/12	13	-26.7%	▲ 297	—	▲ 297	—
2021/12	59	345.2%	▲ 240	—	▲ 232	—
2022/12	178	201.4%	▲ 138	—	▲ 141	—
2023/12予	359	100.8%	34	—	31	—
2023/9 3Q	279	—	37	—	35	—
予想EPS／配当	単独：4.92円／0.00円 ※予想EPSは上場時発行済株式数で試算					

■業績コメント

2023年12月期の業績は、事業収益が前期比100.8%増の3.5億円、経常利益が0.3億円(前期は1.3億円の損失)と増収・黒字転換の見通しとなっている。
第3四半期累計期間(2023年1-9月)においては、「ibVIS®」を活用したパートナーとの共同創薬研究は進捗し、研究支援金の取得や事前に設定した研究マイルストーン達成等による事業収益を計上した。

2023年6月には、武田薬品工業<4502>と、同社が重点疾患領域に定める疾患の複数の遺伝子に対して、mRNAを標的とした低分子医薬品の創出を目的とした新規共同創薬研究契約を締結した。本契約では、創薬研究の初期から上市・販売にいたる全ての経済条件を定めており、本契約の締結に伴い、同社が保有するプラットフォーム技術へのアクセスフィーとしての契約一時金に代わり、研究支援金を取得した。

また同月、新たなパートナー獲得のため、ボストンで開催されたBio International Convention 2023に参加し、同社のmRNA標的的低分子創薬に関心を持つ多数の海外製薬会社に同社のプラットフォーム技術を紹介した。現在、これら製薬会社等と共同創薬研究契約の締結に向けた交渉を開始している。

Veritas In Silico

130A・100株

2月8日

東証グロース上場

基本概要

所在地	東京都品川区西五反田一丁目11番1号
代表者名（生年月日）	代表取締役社長 中村 慎吾（昭和47年6月7日生）
設立	平成28年11月17日
資本金	9000万円（令和6年1月5日現在）
従業員数	15人（令和5年11月30日現在）
発行済株式数（上場時）	6,301,314株（予定）
公開株式数	公募 800,000株 売 出 - 株 （オーバーアロットメントによる売出120,000株）
想定公開規模	9.4億円～11.2億円（O A含む）
事業内容	mRNAを標的とする低分子創薬および核酸創薬のプラットフォーム事業

事業収益構成比率（2022/12期 実績）

品目	金額	比率
創薬プラットフォーム事業	178 百万円	100.0 %
合 計	178 百万円	100.0 %

幹事証券団（予定）

	証券会社名	引受株数	引受シェア
主幹事証券	みずほ証券(株)	未定	未定
幹事証券	SMBC日興証券(株)	未定	未定
幹事証券	三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	未定	未定
幹事証券	楽天証券(株)	未定	未定
幹事証券	松井証券(株)	未定	未定
幹事証券	あかつき証券(株)	未定	未定

その他情報

手取金の使途	(1)研究開発費、(2)設備投資資金、(3)運転資金にそれぞれ充当する予定		
関係会社	-		
VC売却可能分（推定）	-社 -株（売出し・保有期間などの制限があるもの以外）		
直近有償第三者割当	年月日	2021年12月24日	
	割当先	IEファスト&エクセレント投資事業有限責任組合、ほか8か所	
	発行価格	1,250円 ※株式分割を考慮済み	

Veritas In Silico

130A・100株

2月8日

東証グロース上場

大株主上位10者とロックアップ

株主名	持株比率	ロックアップ
中村 慎吾（社長）	23.33%	180日間
三菱瓦斯化学（株）	11.96%	180日間
New Life Science 1号投資事業有限責任組合	9.10%	90日間
三菱UFJライフサイエンス1号投資事業有限責任組合	8.39%	90日間
上村 孝	8.15%	180日間
IEファスト&エクセレント投資事業有限責任組合	5.63%	90日間
梨本 正之	4.88%	180日間
名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャー1号投資事業有限責任組合	4.68%	90日間
エムスリー（株）	3.93%	90日間
松岡 弘之	3.40%	180日間

■ 銘柄紹介

同社は、メッセンジャーRNA(mRNA)を標的とする低分子医薬品(mRNA標的低分子医薬品)の創出に取り組んでいる。mRNAを標的とする低分子創薬(mRNA標的低分子創薬)は、従来のタンパク質を標的とする創薬技術では狙えなかった様々な疾患にも対応可能な新しい創薬アプローチであり、アンメット・メディカル・ニーズ(有効な治療薬や治療法がなく未だ満たされない医療ニーズ)の充足につながることで期待される。

・ビジネスモデルの特徴

同社は、mRNA標的低分子創薬でより多くの医薬品を患者に届けるため、自社で少数のパイプラインを保有する「パイプライン型」のビジネスではなく、同社独自の創薬プラットフォーム「ibVIS®」(ibVIS®プラットフォーム)を活用し、複数の製薬会社と共同で創薬研究を実施する「プラットフォーム型」のビジネスを展開している。製薬会社との契約では、契約一時金、研究支援金にとどまらず、マイルストーン、ロイヤリティ等の対価を規定することにより、契約締結直後から長期的かつ継続した事業収益の確保を目指している。同社のようなバイオテック企業にとって、複数の共同創薬プロジェクトを同時進行するプラットフォーム型ビジネスは、安定した事業収益を確保する観点や、製薬会社との提携によってmRNA標的低分子医薬品の潜在的な市場のシェアを確保して数多くの医薬品を患者に届ける観点から、合理的なビジネスモデルであると考えている。

Veritas In Silico

130A・100株

2月8日

東証グロース上場

また、同社は、ibVIS®プラットフォームの「ターゲット探索」と「スクリーニング」の特許による権利化と、各種自社製作ソフトウェアで構成されるデジタル技術の秘匿化により、プラットフォーム全体の独占性を二重に担保している。

なお、同社は、mRNA標的的低分子創薬の潜在的な市場のシェアをある程度確保した後、プラットフォーム型ビジネスにくわえ、自社でパイプラインの開発を進めるハイブリッド型ビジネスへの転換を計画している。プラットフォーム型ビジネスによりパートナー数を増やし、パートナーから中長期的に十分な収益が見込めるようになった段階(同社では2026年頃と想定)で、自社パイプラインの開発を開始することを目指しているが、当面は、開発の早い段階で製薬会社にライセンスアウトする方針である。

・プロジェクトの進捗状況

mRNA標的的低分子創薬のプロジェクトについては、現在、共同創薬研究のパートナー4社(東レ<3402>、塩野義製薬<4507>、ラクオリア創薬<4579>、武田薬品工業<4502>)とのプロジェクトが進捗している。4社とのプロジェクト中で最も進んでいるプロジェクトは、現在「ヒット化合物検証」を実施中の段階。同社は、共同研究及び共同創薬研究の契約にもとづき、これまでに合計5.5億円の事業収益を獲得している(2023年9月末現在)。今後は、共同創薬研究中のパートナー4社との契約にもとづき、短期的(創薬研究期間中)には17.8億円(このうち5.5億円は取得済)の研究支援金又は研究マイルストーン、中期的(開発期間中)には80.5億円の開発マイルストーンを事業収益として獲得する可能性がある。

さらに、医薬品が上市した場合には、長期的(販売期間中)に、1桁台前半パーセント(%)のロイヤリティ及び販売額に応じたマイルストーン収入(最大1050億円)が見込まれる。ただし、東レの場合には、医薬品候補化合物の権利は東レと同社で共有することになっており、同社は化合物の持分に応じた収益を受領することになる。なお、前述の研究・開発・売上のマイルストーンについては、いずれも既存のプロジェクトが全て成功した場合の最大値である。創薬の成功確率は相対的に高くはなく、減少する可能性は十分にある。

Veritas In Silico

130A・100株

2月8日

東証グロース上場

免責事項(ディスクレーマー)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなるを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号

株式会社フィスコ

電話: 03-5774-2443(情報配信部) メールアドレス: support@fisco.co.jp